

第13回レスキューロボットコンテストにおける 消防庁長官賞の授与について

消防技術政策室
消防研究センター

1. レスキューロボットコンテストの開催について

平成25年8月10日(土)～11日(日)に、神戸サンボーホール(兵庫県神戸市)で第13回レスキューロボットコンテストが開催されました(消防庁特別共催)。

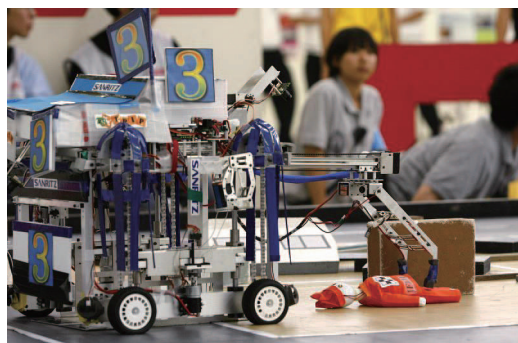


第13回レスキューロボット
コンテストポスター

消防庁では、自治体消防制度60周年の記念事業として第8回(平成20年)から消防庁長官賞を設け、救助活動において、要救助者の負担を軽減するための先進的な科学技術を導入するという観点から選定し、表彰を行うことにより、今後の消防防災活動を支えるレスキューロボットの研究開発・実用化の推進に寄与しています。

2. レスキューロボットコンテストとは

日本におけるレスキュー技術の研究においては、平成7年の阪神・淡路大震災から得られた教訓を踏まえて、救命救助機器の技術的課題に関する様々な検討が行われました。この中で、ロボット技術の研究は活発になり、大きく発展しました。それらロボット技術の中からは、東日本大震災における福島原子力発電所事故の調査活動に活用されているものもあります。



要救助者(ダミー人形)の救出にあたる
「大工大TECFER」3号機

レスキューロボットコンテストは、参加者が製作したロボットでコンテストの課題(ガレキに埋もれた要救助者の救助)に取り組むことで、レスキュー活動の重要性や難しさについて自ら考えるとともに、将来的にレスキュー機器の開発に携わる青少年を育成することや、防災やレスキューの必要性について広報することを目的としています。

3. 消防庁長官賞受賞チーム

今回の消防庁長官賞は、大阪工業大学が製作した「大工大TECFER」が受賞し、コンテスト本選当日に渡邊洋己消防庁消防研究センター所長から表彰状と盾が授与されました。

「大工大TECFER」は、特色ある救出機を揃えることで様々な状況に応じた救出活動が可能となるよう機体制作を行い、受賞理由としては、各種センサーを用いて、安定でスムーズな救助動作を行って確実に迅速に搬送し、要救助者の負担を大きく軽減する重要な点を実現していたことが高く評価されたものです。



大阪工業大学「大工大TECFER」(消防庁長官賞受賞)
後列左端 土井智晴 レスキューロボットコンテスト実行委員長
後列右端 渡邊洋己 消防庁消防研究センター所長

コンテスト当日の詳細については、
レスキューロボットコンテスト公式ホームページ
<http://rescue-robot-contest.org/index.html>
を参照ください。

問い合わせ先

消防庁消防技術政策室 福田
TEL: 03-5253-7541